



シロモチくんとゴーちゃんが語る津市政 vol.41

備えは地下に。安心は地上に。

~100億円超で築く防災の巨大トンネル~

下水道工務課 ☎239-1033 📠239-1037

下浸水などの被害が大きかった地域なんだ。だから、大雨の時に雨水をすばやく地下の排水管に流して、道路冠水や住宅への浸水被害を減らそうとしているんだ。工事の多くは地下で行われるから、地上の景色は大きく変わらないんだよね。

貯水量は25mプール50杯分
雨水を流して浸水を防ぐ

「そっだったんだね。雨水だけを流す管ってことなんだね。」

「うん。雨水幹線は、雨水専用の大きな管で、生活排水を流す管とは別ルートなんだ。イメージとしては「雨水専用の高速道路」を造っている感じだよ。」

「どれくらいの大かさかさなの?」

「半田地区で整備している半田川田雨水幹線は、排水管の直径が大きなところで3mになるよ。」

「藤方地区で整備している藤方第2雨水幹線はもっと大き

くて、管の直径が3.4mだよ。どちらも車1台が通れるくらい大きい管なんだ。」

「すごく大きいんだね! じゃ、長さは何くらいなの?」

「半田川田雨水幹線はおよそ2km、藤方第2雨水幹線はおよそ1.5kmで、合わせて3.5kmになるよ。これは江戸橋駅から津新町駅までの2駅分と同じくらいの距離になるんだ。」

「そんなに大きくて長い管ならたくさん雨水が入るんだらうね。どれくらいの雨水が入るの?」



「半田川田雨水幹線は約8400t、藤方第2雨水幹線は約1万3700tの水が入る排水管を整備しているから、合わせて小学校の25mプール約50杯分の水と同じくらいの量になるよ。」

「国の補助制度を生かして100億円超を投資」

「そんなにすごい地下トンネルを造っていたんだね! でも、お金がすごくかかりそう…。どれくらいの金額になるの?」

「事業費は半田川田雨水幹線で約48億円、藤方第2雨水幹線で約57億円だから、2つを合わせると約105億円が必要なんだ。日硝ハイウエーアリーナを造った時の事業費が約130億円だったから、それと比べて考えると、どれだけ大きい施設を地下に造っているかイメージできるんじゃないかな。事業費はすごく大きいけど、浸水が起きた時の復旧費用や地域の経済への影響、何よりこれからの地域の安全のことを考えて、見

近年、局地的な大雨により、全国各地の市街地で浸水被害が発生しています。津市でも、平成16年9月に、台風21号による大雨で床上・床下浸水被害が発生しました。20年以上が経過した今、津市ではどのような浸水対策が進められているのか、ゴーちゃんがシロモチくんに尋ねました。

津のまちを浸水から守る
地下トンネルの秘密

「半田地区と藤方地区で長い間工事が続いているんだけど、全然まちの風景は変わっていかないんだよね。何の工事をしているのか知ってる?」



「今、工事しているのは、雨水幹線というものだよ。雨水を流すための大きな地下トンネルのような排水管を造っているんだよ。」

「半田地区と藤方地区は、平成16年9月の台風で床上・床



えないところで大きな効果を発揮するための大切な投資をしているんだ。」

「そうなんだね。その事業費は全部津市が負担するの?」

「浸水被害を減らすために始まった、国の個別補助制度を活用して事業を進めているよ。この制度ができた時に真っ先に手を挙げて、札幌市や広島市、千葉市のような大都市と同時期の令和3年度に事業採択を受けたんだ。」

「なるほど。国の補助制度を活用して、市民の生活を守るための、すごく大きな工事をしていたんだね。」

「うん。この工事が完成したら、大雨の時に道路の冠水や住宅への浸水リスクが下がるし、通勤や通学への影響が小さくなったり、物流やお店の営業も続けやすくなったりするよね。大雨からいつもの暮らしを守ることに繋がっていくよ。」

「最近ではゲリラ豪雨が多いもんね。2つの工事はいつ完成するの?」

「半田川田雨水幹線が令和8年12月、藤方第2雨水幹線が令和9年1月の予定で、完成が近づいてきているよ。」

「大雨が降ってもより安心して暮らせるようになるんだね。今から完成が待ち遠しくなってきたよ。」

「合言葉は「備えは地下に。安心は地上に。」だよ。見えないところにしっかり備えているところなんだ。100億円超の投資で築く防災の巨大トンネルの完成までもう少し! 着実に工事を進めていくよ。」

